



子どもに  
ツケを  
まわさない!

東久留米市議会議員

さとういちろう

# 佐藤一郎

## 略 歴

1966年 10月16日 宮城県生まれ A型  
1985年 宮城県立仙台第二高等学校卒業  
1990年 早稲田大学政治経済学部政治学科卒業  
外資系商社に入社、同社に20年勤務  
1997年 長男誕生を期に東久留米市に転居  
2005年 関西への転勤を経て、  
東久留米市を外から考える機会に恵まれる

2010年 東久留米市の事業仕分けにメンバーとして参加  
2011年 東久留米市議会議員選挙において1365票いただき初当選

**家族** 妻1男(高校生)、2女(中学生と小学生)の5人家族  
**趣味** スポーツ観戦(特に母校と日本代表の応援)  
読書(特にミステリー小説)  
**資格** 議員力検定 議員一級

## 市庁舎内の組合事務所から家賃徴収決定!

組合事務所からの家賃徴収は、私が平成24年の予算特別委員会で初めて質問して以来、ずっと取り組んできたテーマです。現在、市庁舎内には2つの組合の事務所があります。この事務所では光熱水費は払っているものの、**家賃は無償**で入居しています。市庁舎は言うまでもなく市民の財産です。職員のための組合事務所は別に市庁舎内に置かなければいけないという決まりはありません。実際に他市では別の場所を借りている組合もあります。財政状況が厳しいわが市では、今後の公共施設の建て替えも見据えて、昨年の6月から多くの公共施設の使用料を値上げしました。市民にばかり負担を押し付け、肝心の市の職員が市民のためのスペースを無償で占有していたのでは、市民の納得が得られるはずがありません。私の度重なる訴えで、やっと市側は組合との交渉に入り、1つの組合とはこの度交渉がまとまりました。**年額で約58万円の収入**になるとのことです。もう1つの組合とはまだ交渉が継続中とのことですが、こちらでも早期の解決が図られることを期待しています。



裏面へ続く▶

今回のことだけでなく、私はこの4年間、市の職員に対しては厳しい態度で臨んできました。市議会議員になってすぐの予算特別委員会では、**職員共済会への補助金**を問題にしました。前年まで**1000万円近い額**が補助金として市の一般会計から職員の福利厚生のために使われていました。私の質問を契機にこの**補助金は休止されました**。また外からは見えなかった市当局と職員組合との様々な交渉の経緯も市のホームページで公開することができました。市の財政状況は厳しく、少子高齢化が進む中で、消費税の値上げだけでなく、国民健康保険料、下水道料金、

介護保険料も値上がりし、次々と市民負担が増えています。そんな中、市民に負担をお願いするならば、まず職員自ら身を切らねばならないと思います。もちろん議員も同様です。**身を切る改革**をしなければ、市民の同意は得られません。これまでの市議会は職員と「なあなあ」でやってきたのかもしれませんが。職員組合から選挙で応援をもらっている議員も確かに存在します。しかしそんな議員ばかりでは、東久留米市の未来はありません。私はこれからも東久留米の未来のために、嫌われ者になっても行財政改革に邁進していきます。

## 東久留米市を変える**5つ**の政策

### 行財政改革の推進

数多くある補助金のゼロベースでの見直しなど、歳出の徹底的な見直しを行い、更なる歳出削減を進めます。また同時に議員報酬と職員人件費もカットし、市の財政の健全化を目指します。

### 保育・子育ての充実

現在200名近い待機児童を解消するために、認可保育園の新設や保育ママの拡充などを進めます。また、「コミュニティ・スクール」(地域運営学校)を導入し、先生と保護者だけでなく地域のみならずで子供を育てましょう。

### 予約制乗り合いバスの導入

前市長は財政負担の大きさから、自らの公約だったコミュニティバスの導入を断念しました。より財政負担が小さい、民間を活用した予約制乗り合いバス(デマンド交通)の導入を目指します。

### 福祉・介護の充実

今後主流になる在宅介護は医療機関など様々な機関と連携し、安心できる介護体制を構築することを目指します。また同時に、団塊世代・シルバー世代の活力を地域活動やNPO活動に役立てて頂ける環境づくりを目指します。

### 議会基本条例の制定

近隣市でも制定が進む議会基本条例を制定し、市民に分かりやすく、意見を伝えやすい市議会にしたいと考えています。あわせて、全議員参加の議会報告会や土日議会の開催を目指します。

